

人むすびの場

第41回テーマ

“格差社会を変える雇用の生み出し方”

～新しい就労支援・フェアスタートを事例に～

日時	平成23年12月15日(木) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「格差社会を変える雇用の生み出し方
～新しい就労支援・フェアスタートを事例に～」
永岡 鉄平(ながおか・てっぺい)さん
(株式会社フェアスタート 代表取締役)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 角田 知行
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(ピアンタ)



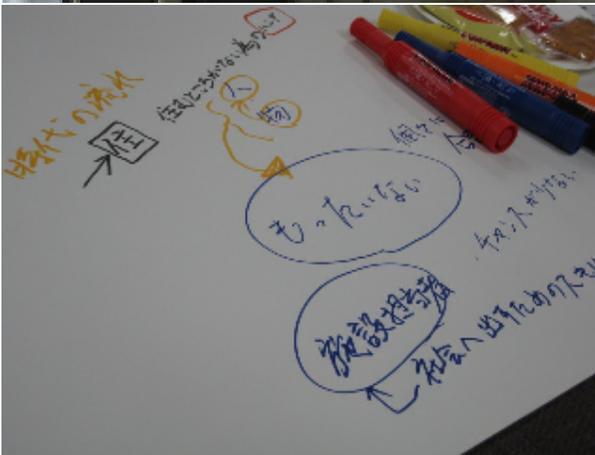
「格差社会を変える雇用の生み出し方 ～新しい就労支援・フェアスタートを事例に」

ゲスト 永岡 鉄平(ながおか・てっぺい)さん

(株式会社フェアスタート 代表取締役)

「もったいない」という前向きな視点からの支援がとても重要です！

- 児童養護施設、自立援助ホームの子供達全員が、安心して笑顔で施設を巣立ち、社会で活躍できるインフラを創りだすため起業。
- 今の子供達には、何か大事な人間教育・社会教育が欠けているのではないか。「教育」というキーワードを原点に、これからの世代を支えていく子供達のために役に立ちたい、今の子供達の心の育成に求められているものは何かを模索しました。
- ① 農業を通じ、「もったいない」という考えを体感する
- ② 仏教を通じ、「人は生きているのではなく生かされている」という考え方を得る。せっかくいただいた命を自分のためだけに使うのはもったいない。自分のなすべき使命を見つけ、それに自分の命を使うことが「真理」なのではないかと悟る。
- ③ 幼児の子育て現場から、乳幼児期(0～6歳)の間の親からの愛情が教育の根底であることを知る。
- その後、「子供の貧困問題」を知り、出会いがあって児童養護擁護施設でボランティアをして、施設退所者が社会に出て苦しんでいる現実を知りました。生命力が強く自立への気持が強い人材が安定した職につけず、「もったいない」という思いが強くなり起業。2010年9月には、第1回社会起業プランコンテスト(内閣府地域社会雇用創造事業) グランプリ(最優秀賞)を受賞。NHKや毎日新聞はじめ、様々なメディアにも取り上げられることになりました。
- 現在、日本には約570の児童養護施設があり、約30,000人を超える子供達が生活をしていて、その数は年々増加傾向にあります。
- 高校を卒業するタイミングで基本的に施設を出なければならず、多くの子供達が就職し社会人として生活していく選択肢を選びます。しかし、その就職において、十分な選択肢という「機会」が無いことから、高い確率でミスマッチが起き、仮に就職したとしても大多数の若者が入社して半年たたないうちに離職をし、ワーキングプアの仲間入りをしてしまいます。
- ① 本人が極めて未熟な状態で施設退所を強いられていること(キャリア支援が乏しく職業適性がわかっていない)、
- ② 就職先の選択肢が少ない(施設職員のキャパシティオーバーや高校側のサポート力の低下、「住み込み」を優先する傾向、他)
- ③ 退所した途端、一気にサポートが弱まる(仕事の相談、生活の相談など、できる人がいない、職場以外での仲間作りができない(寂しい))などが原因です。
- 民間企業は、基本的に温情で人材は採用しないし、温情で採用されたとしても、究極的には本人のためになりません。ただ、特に中小企業は、人材を平均点で判断しない企業が多い。何か一つでも良さがあれば、そこをメリットと感じ、雇用する可能性があります。
- 大事なものは、その若者本人の長所を企業側の視点から可視化し、そこを企業に売り込むこと。企業側の視点からの就労支援(入所中・出口・退所後)が雇用課題を解決に導く大きな切り口となります。
- これからも子ども達専門の就労支援会社として、格差社会、子どもの貧困問題に、ビジネス的アプローチで解決策を示そうとチャレンジしていきます。

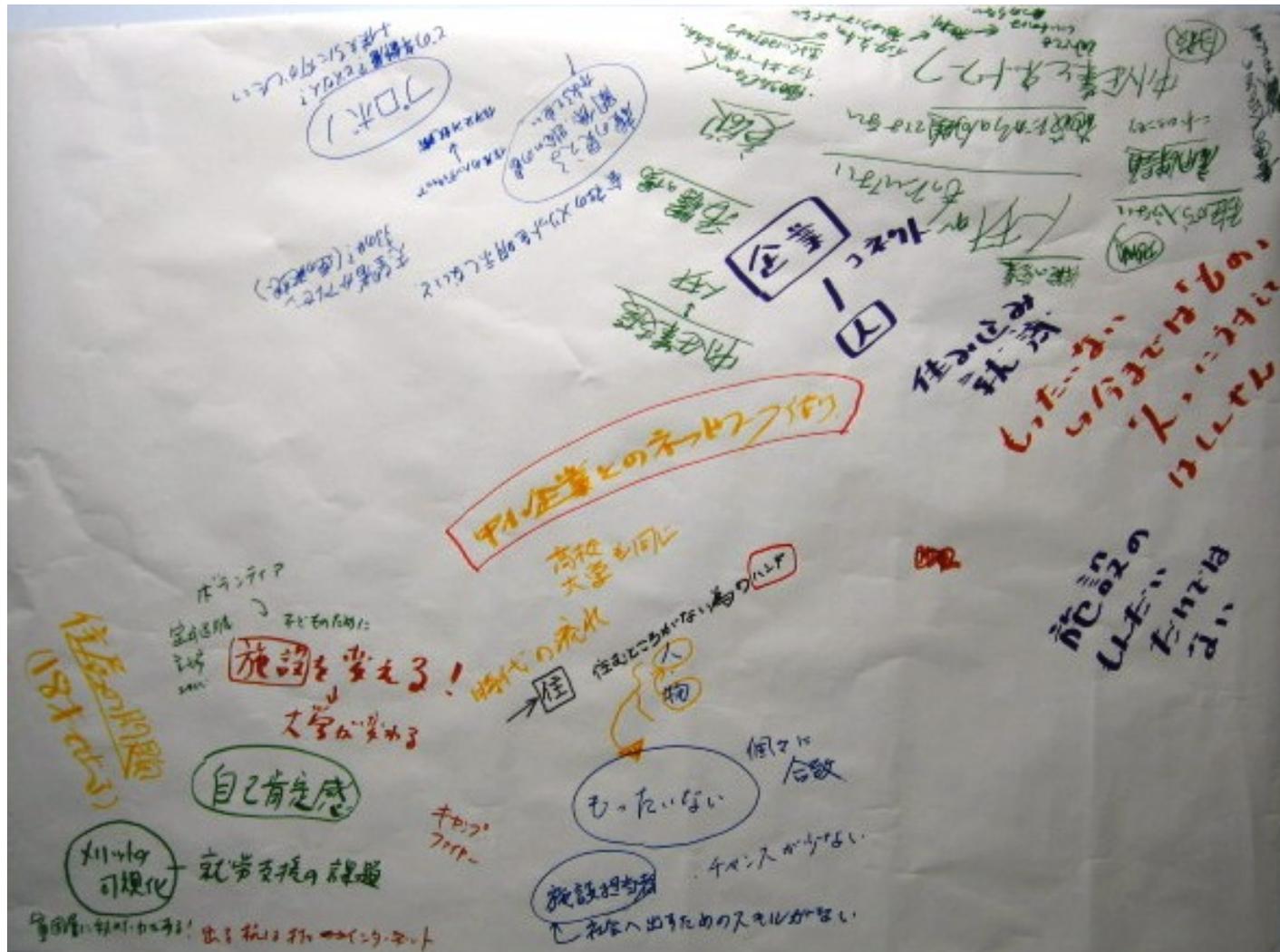


フォトライブラリー



人むすびカフェ

特にテーマを定めず自由に対話しました



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・施設の子供達、未来を背負う若者達へ想いを持つ方は予想以上に多いと感じました。
うまく仕組みを作っていきます。
- ・“自己肯定感”という言葉を知った。
- ・人と人をつなぐ人が社会には必要。だれもが、ふさわしい場所がある。
- ・世の中を変える「起爆剤」になることを確信
- ・実際に現場を見ることの大切さ(「かわいそう」→「もったいない」へ)
また、「もったいない」という分かり易いキーワードを作ること、伝わり方が違う。
- ・人材における“もったいない”
- ・格差の生まれ方 見る方向・見られる状態
- ・貧困層には秘めた力がある
- ・中小企業に人財のメリットの可視化をしてつなぐ(コネクト)ことが大事

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・起爆剤！ まさに狙っています。
- ・児童養護施設の子どもは障がい者とは違う。支援の仕方も違うこと
- ・「もったいない」 ふさわしくない場所にくすぶっていたら「もったいない」
- ・＜中小企業支援＝施設の子供たちの支援＞ 人材を育てる仕事
- ・企業と施設の中間に立つ
- ・施設を変える ⇔ 企業を変える
- ・求人と企業のニーズのマッチング(コネクト)
- ・住まいの問題 住生活
- ・もったいない(人は活かすもの)
- ・もったいない

本日の感想③

* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・とても濃い時間をありがとうございました。
- ・施設の子どもたちの働く場(雇用)を生み出すこと
- ・具体的にこの動きを広げる展望が見えてきた気分
- ・自分のバックグラウンドに知識が少なかったので、建設的な議論が出来なかったこと
- ・今後、風になって欲しい。(世の中の求めているもの)
- ・永岡さん、がんばってください！

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。